

第2回検討会における主な意見

織田委員、水嶋委員、吉本委員から資料に基づき意見発表があった。その後の意見交換で出された主な意見は次のとおり。

<本検討会の進め方>

- まず国立文化施設等の将来像をしっかりと示す必要。それとともに独法評価手法など技術論についても分けて議論が必要。

<文化予算、国の文化政策、事業仕分第3弾、本検討会のメッセージ>

- 我が国の文化予算がそもそも少なすぎる点を議論の出発点とすべき。
- 戦前、日本の財閥は膨大な寄附を集めたが、戦後の財閥解体で財源を失った。いま民が弱くなっているのに政府が本来の役割を果たさなくなっているのは問題で、本検討会としてその点についてメッセージを出していくべき。
- 仏国のアンドレ・マルローは、文化相当時、芸術の地方分権化を進めたが、この点についても検討する必要。
- 事業仕分第3弾(再仕分)に近いが、このまま傍観していて良いのか。本検討会としても何らか意見表明をしていく必要があるのではないか。
- 文化関係が事業仕分第3弾(再仕分)の対象となることも考えられる。事業仕分に耐え得るような議論が必要。良い仕事をしていても法人への天下りなど関係ない部分を指摘されがち。文化政策は観光政策と並ぶ位置付けとしなくてはならない。
- 本検討会として、国立文化施設について、従来の問題点をどのように改善していくか提言していく必要。「良いものがあれば集客できる」というのは誤謬であり、金沢21世紀美術館の例が示すように「どう魅せるか」が重要。また、選択と集中、競争と淘汰の原理が働いているかどうかポイント。事業仕分は独自の論理で行われるので、それに対して、本検討会としてスピード感をもって改革案を打出していく必要。文化予算の充実につなげるためにも今こそ正念場で、力強い論点整理を出して欲しい。事業仕分はピンチだが、同時にチャンスでもある。
- 文化予算の拡充について、昨日も芸団協が署名活動している。事業仕分第3弾は11月半ば、本検討会の論点整理は12月予定であるので、その前に本検討会として中間的にメッセージを出す必要があるかどうか、事務局とも相談したい。

<コレクション、資料目録>

- 国内の貴重なコレクションの海外流出が懸念されており、根本的な検討が必要。また、科博をはじめ国内の博物館の収蔵庫不足は大きな課題で、その充実が喫緊の課題。
- 博物館の標本管理は裏方で観客の認知度が低いが、コレクション保存や収蔵庫は社会的コストをかけてでも行う必要があることを国民に理解してもらう必要。
- 仏国では、1964年から産業遺産や自然史標本を含め「フランスのモニュメント及び豊かな芸術についての総合台帳」(データベース)を整備・更新しており、国の大きな力となっている。日本でも海外流出のおそれのあるコレクションを「レッドデータブック」としていかないと、切捨てら

れてしまう。国民の目から見ると税金の無駄に見えるかもしれないが、継続的な目録作りの重要性を主張したい。

- 多くの博物館でコレクションが整理されずにあるのは問題。国として貴重なコレクションをどうしていくか考える必要。

<建築関係等資料>

- 丹下健三氏等の貴重な建築関連資料の海外流出が懸念される。
- 建築家のドローイング、サブカルチャーのコレクション等も海外流出しつつある。
- 建築関係資料や、昨秋立消えとなった「国立メディア芸術総合センター」はもったいない。所在地は東京でなくても良く、その場合、観光アイテムとして位置付けることができる。

<展覧会、入館料>

- 民間が大きナリスクを負って展覧会等の大型イベントを行っている点について、抜本的にどうしていくか考える必要。我が国では入館料を無料化した瞬間に大型展覧会が開催できなくなる。英国では政権交代で文化予算が削減されている中、ニーズの高いコレクションの貸出しで稼いでいるが、日本のコレクションで海外巡回していくのは難しい。
- 東大博物館は外部からの様々な圧力をはね除けて入館料無料を貫いている。各館の個性を出し、多様性を持たせるのが良い。また、展示に当たって外部資金も導入すべき。

<新国立劇場の在り方>

- 新国立劇場に関連して、公演が首都圏に限られていること、海外公演により投資回収されることがないことは問題。新国立劇場は再演、地方公演、海外公演がないが、このようなことは他の先進国ではあり得ない。また、予算獲得への気迫が感じられない。
評価は「アーツカウンシル」に一元化すべきで、競争性を持たせ、「アーツカウンシル」が事業を評価・選定する仕組みを検討すべき。
北海道と九州に新たな(新)国立劇場を設けるべきだが、直ちには難しければ、仏国のように地方劇場を「国定劇場」と定める方法も考えられる。
- シンシナティ・シンフォニーによると、日本公演は黒字、欧州公演は赤字であり、公演すると日本ではいつも拍手が起るが、欧州では良い公演でないと拍手が起きない。収支のみ考えれば日本公演のみで良いが、質の向上を考えると欧州公演が必要とのこと。質を高めるには厳しい批判に曝されないといけない。

<法人の財源確保>

- 各法人がいかにか財源確保すべきか、基金、寄附も含めて検討したい。財源確保の観点から、組織を一つにしていくか、バラバラのままが良いか。業務はそのままで全体を纏めていくのが良いか、次回検討会で意見を述べていきたい。

<その他>

- 沖縄には国立劇場があるが、アイヌ文化については国立文化施設がない。